

◆◆◆ピンク◆◆◆

■ずいぶん前の記事になります。

「ドンブラザーズ」キジブラザーは男性初のピンク、をご覧ください。

新たなスーパー戦隊「暴太郎戦隊ドンブラザーズ」の制作発表会見がオンラインで開催された。全長に220センチとひときわ長身なスタイルのキジブラザーは俳優の鈴木浩文が変身する。キジブラザーのカラーはピンク。

1975年放送開始の「秘密戦隊ゴレンジャー」モモレンジャー以来、男性の本来の担当カラーがピンクになるのは初めて。「ドンブラザーズ」は革新的な作品となる。

1964年生まれの私は「ゴレンジャー」にくぎ付けになった世代。そして親になって日曜の朝、眠い目をこすりながら子どもと一緒に「〇〇レンジャー」を観てきました。ヒーローはたいてい5人組。そして次のように色で「キャラ」が分かれていました。

- ▼赤 主人公。情熱的。仲間を引っ張っていく。
- ▼青 冷静沈着。まじめで信頼されている。
- ▼緑 落ち着いていて仲間をまとめる。
- ▼黄 ポジティブ。仲間を明るくする。
- ▼桃 女性。優しい。仲間を支える。



ランドセルの色は男子は黒で女子は赤、という時代の真ただ中でしたので、はじめは「なんで男が赤？」と思ったことをなんとなく覚えています。が、いつのまにか赤は「レッド」となり男子のヒーローの色に。一方、ピンクは私の中では女子の色としてあり続けてきたのでした。

■この記事に対する反応を二つ紹介します。

- ▼母親の好みでやたら赤やピンクの服を着せられたが、赤は戦隊ではリーダーの色なので子ども心に納得はしていたものの、ピンクは女性役の色なので恥ずかしく感じていた。その反動から中高生になり自分で服を買うようになってからはとにかく黒ばかりになり、大人になってやっとその束縛から解放されてピンクを使うことができるようになった。
- ▼桃太郎がモチーフになっているのなら桃=ピンクがリーダーでもいいのには感じますが、やっぱり戦隊ヒーロー伝統の赤がリーダーは不動のポジションなんですね。多様性が求められる時代なので男性がピンクを演じる事も良いとは思いますが、今後あまりにも多様性にこだわり、同性間の恋愛感情やジェンダーな心や容姿を伴う出演者など過剰すぎる演出は必要ないと感じます。

昭和の私も今では「ピンクの男性と言えはあの芸人さん」と連想するくらいですからずいぶん柔軟になった気がします。明日は「ピンクシャツ・デー」です。

